



# 家庭通信 9月号



2021年8月31日  
学校法人 織田学園  
おだ認定こども園

毎月の家庭通信・献立・保健便り等もHPでご確認いただけます

残暑が厳しい日々が続いていますが、9月に入ると秋の気配を感じやすくなってきます。秋の訪れは、季節の変化を一番肌で感じることのできる季節ではないでしょうか。空気が変わる感覚を子ども達とともに感じてみたいと思います。四季があるのは日本の特徴でもあります。登園・降園の時等にお子様と一緒に日本ならではの季節の変化を発見してみたいと思います。新型コロナウィルス感染症の感染拡大で子どもも大人も無意識に緊張を強めていることがあります。身近な季節に目を向けることでちょっと視点が変えられる一瞬になるかもしれません。

## 【レジリエンス resilience 復元力】

さて先週からパラリンピックが開催され連日熱戦が繰り広げられています。選手たちにはそれぞれストーリーがあり、私たちが想像を絶するくやしさを挫折を繰り返しながら、それでもあきらめずオリンピックの舞台に立っている人たちです。私は毎日彼らの勇姿を見てカブられている一人です。そんな毎日の中でNHKパラリンピックキャスター後藤祐季さんが、パラアスリートたちに「レジリエンス」についてインタビューしている場面を見ることができました。パラアスリート達がそれぞれご自身の体験から話すその言葉の重みを感じるとともに、子どもや私たちこそこの力が必要なのではないか、と考えました。レジリエンスは特別な人達が身に着けやすいということではなく、心理学者などの研究から、楽観性を持つ人や、過去に挫折から立ち直った経験を多く持つ人ほど、心が折れにくいことが明らかになっています。新型コロナの影響は大変深刻で、私たちの生活が制限されたり見えない恐怖、見通しのつかない不安に立たされたりしています。しかし、それでも私たちは子ども達とともに前に進まなければなりません。このような時代だからこそこの力が支えになっていくのでしょうか。「レジリエンス」は、困難に打ち勝つというより、困難や変化を受け入れたり、柔軟に対応したりあきらめない心の力といえるでしょう。あるパラアスリートが、インタビューの中で、「レジリエンスはすでに皆さんも持っています。生きていく中で小さな困難をいくつも乗り越えてきている人達みんなが持っている力。」という意味の言葉がとても印象的でした。子ども達と生活する中で、トラブルを回避させようとする力が強くなってしまうと、子どもが乗り越えられる小さな困難にすら立ち向かうチャンスを逸してしまうかもしれません。レジリエンスが育つチャンスを逃さず、子ども達の挫折や困難に寄り添って本人の力に変えていくための援助に徹したいと思いました。

## 9月のわらい

\*3.4.5歳児のねらいは、9月～作品展までのねらいです

### <年長>

- 様々な材料や道具を使い、試したり考えたりしながら作りたいものや場を作ることの面白さや満足感を感じる。
- 自分の思いや考えを相手にわかるように伝えたり、相手の話に耳を傾けたりして、自分たちなりに考えた事を進めていくことを楽しむ。
- 様々な運動遊びに興味を持って取り組み、全身を動かして遊ぶことを楽しむ。

### <年中>

- 保育者や友だちと一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- 夏から秋への季節の変化に興味関心を持ち、身近な自然に触れる。
- 自分の好きな遊びをする中で友だちとの関わりを楽しむ。
- 様々な素材に触れながら、自分たちなりに考えたり、クラスの友だちと力を合わせて作ったりすることを楽しむ。

### <年少>

- 簡単な身の回りのことを自分でしようとする
- 保育者や友達と同じ場で遊ぶことを楽しむ
- 保育者と一緒に体を十分に動かす心地よさを感じる
- 好きな遊びをし、十分に楽しさを感じる
- いろいろな素材に触れ、自分なりに作ったり見立てたりして遊ぶことを楽しむ

### <2歳児>

- 夏の疲れや体調に留意しながら、一人ひとりの興味に合わせて過ごせるようにする。
- 涼しい日には、園庭や散歩に出かけ体を動かすことを楽しむ。

### <1歳児><0歳児>

0.1歳児は個別のねらいを立てています